

第2回 Yamagata みらいコミュニティ座談会・概要

1. 日 時：令和2年7月29日（木）14時30分から16時00分まで
2. 場 所：UNITE CAFE（山形市蔵王温泉）から中継（オンライン会議）
3. 出席者
パネリスト：伊瀨南々絵氏、小林孝一氏、平尾清氏、堀江守弘氏
（一社）ふるさと山形移住・定住推進センター：駒林雅彦専務理事（兼）事務局長
県：吉村美栄子知事、小林剛也みらい企画創造部長、松田明子しあわせ子育て応援部長、渡辺将和産業労働部長、斎藤直樹観光文化スポーツ部長

4. 会議次第

- 1 開 会
- 2 知事あいさつ
- 3 説 明
 - (1) 県のワーケーションの取組みについて
 - (2) その他
- 4 パネルディスカッション
テーマ：「ワーケーション×地域の魅力掘り起こし⇒イノベーション」
- 5 閉 会

5. 会議録

■開会

■知事あいさつ

■説明

- (1) 県のワーケーションの取組みについて
- (2) その他

・伊瀨南々絵氏から蔵王温泉を背景にピアノの演奏を行っていただいた後、資料により、小林みらい企画創造部長が「県のワーケーションの取組み」について説明。

■「ワーケーション×地域の魅力掘り起こし⇒イノベーション」をテーマとして、パネルディスカッション

・各パネリストより、ワーケーションや地域の魅力、現在の取組みについて発表

【伊瀨南々絵氏】（山形市：UNITE CAFEから参加）

・結婚式の会場の装飾やブライダル向けのブーケやバルーンの装飾を行っている。ブライダルだけでなく、山形市のランドマークである霞城セントラルのクリスマスの装飾も担当している。堀江さんの運営しているスロービレッジの装飾も行った。いつもの空間を非日常の空間にすることをメインに手掛けている。

【小林孝一氏】（大蔵村：肘折いでゆ館から参加）

- ・ 2015年の5月に大蔵村に近畿日本ツーリストから派遣され、観光プロデューサーとして、2つの事業に取り組んでいる。1つ目はインバウンド。村の若手経営者との話の中で、年々湯治客が減っている、日本人になかなか来てもらえないという話になり、それじゃ、インバウンドに取り組もう、タイから観光客を呼び込もうということになった。2019年の12月に念願の仙台空港への定期便就航にもつながった。今は、コロナで観光客が来ることができない状況だが、アフターコロナを見据え、精神文化ツーリズム、アドベンチャーツーリズムを進めている。
- ・ 2つ目は、日本有数の豪雪地帯であることを活かした取り組み。大蔵村では、2018年2月に445cmの積雪があったことから、雪が降ったら宿泊料を割引したり、厄介者の雪を雪だるまにして売ったりした。雪だるまの販売は、国内からは100件を超える注文をいただいております、また、タイへの実証実験が成功したことから、海外にも売り出していくこととしている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 先日の日経の雑誌に山形県の釣りケーションと一緒にやっている中川めぐみさんが、肘折バカンスのモデルとして登場していたようだが、肘折温泉には仕事ができるコワーキングスペースはあるのか。

【小林孝一氏】

- ・ 今、私がいる肘折いでゆ館にコワーキングスペースの設備がある。肘折いでゆ館は、日帰り温泉施設だが、ワーケーションのため2階にコワーキングスペースを整備した。

【平尾清氏】（東京から参加）

- ・ ポートフォリオワーカーとして、東京と山形の2つの拠点で、大学の授業や、企業のコンサルティング、コワーキングスペースの整備、ワーケーションのツアーの企画、すいかで有名な尾花沢市の三十路式の企画など、幅広い取り組みを行っている。
- ・ 最近は、新しい働き方に注目しながら、釣りケーションに力を入れている。釣りケーションは、庄内浜の由良から始まった言葉だが、庄内の豊かな自然環境、釣りの深い文化・歴史と、新しい働き方をつなげることにより、新結合・イノベーションの流れを作っていきたい。
- ・ 釣りケーションは、ブームや観光の一アクティビティに聞こえるかもしれないが、地域の在り方、生活の仕方や、生き方の変革を促すことにはなれないかと思っている。
- ・ 本日のパネルディスカッションを通して、ちょっとでも釣りケーションや、新しい働き方に興味があるなど、地域の未来に可能性を持つ人がいたら、仲間を絶賛募集中なので、気軽にお声がけしていただければと思う。

【堀江守弘氏】（飯豊町：スロービレッジから参加）

- ・ 4年ほど前に東京からUターンし、飯豊町にホテルスロービレッジを立ち上げた。スロービレッジには、ワーケーションの拠点として、ホテルの1階のスペースをコワーキングスペースとして整備。ホテルを立ち上げた半年後に、南陽市に地元の食材を使ったフレンチを軸としたレストランをオープン。住宅会社の役員も兼務しており、その一環としてパラグライダー入社式を行ったりもした。また、飯豊町は水没林が有名だが、そこでカヌー体験も主催している。コロナ禍の中、地元山形を中心に多くの方に体験いた

だき、コロナ疲れのリフレッシュにもなったと思っている。ドローンを使って、水没林の湖と青空が一体になった景色を撮ったが、ゆくゆくは直接、肉眼で見ることができるようにと、気球を上げたいと思っている。

- ・ こういった地域の魅力をグローバルに紹介し、自然や地域から生み出される体験・アクティビティ、食事や宿泊をとおして、交流人口・関係人口の創出・拡大、移住・定住につながる循環を作っていきたい。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 7月24日から28日までの3泊4日で飛島で釣りケーションを行う予定だったが、台風の影響で1泊2日しかできなかった。飛島のフェリーの運行が不安定なことが課題であることから、空飛ぶ車のベンチャーの会社と協力して、山形の地域の資源と空飛ぶ車のコラボができないか話し合うこととしている。堀江さんの気球を使った水没林の体験に加え、空飛ぶ車で水没林を見ることができるようになればいいと思っている。
- ・ 伊渕さんが堀江さんのスロービレッジをプロデュースしたとの話に見られるように、山形は人のつながりが豊かで、声掛けするだけでつながることができるということが特徴だと思う。全く知らない人、信用できない人とは新結合を生み出すことはできない。あの人を知っているという素地の元で、新結合が生まれることに意味のあることだと思っており、また、安心して、企業を紹介することができる。
- ・ 伊渕さんから、最初にピアノを弾いていただいたが、ワーケーションともからめて伊渕さんが取り組んでいるストリートピアノについて、人とのつながりを含めて詳しい話をお願いしたい。

【伊渕南々絵氏】

- ・ 高校生の頃は、「山形って何もないよね～。やっぱり東京でしょ！」と思って、東京の大学に進学したが、山形に戻ってきて就職した。外に出て、山形の良さに気づき、もっと山形の良さを発信したいと思い、ヤマガタ未来Lab. でライターとして山形の良さを発信する機会を得た。ライターとして活動している中で、本日出席いただいている平尾先生に、山形大学の起業家育成の取組みを行っている山形大学 EDGE-NEXT を紹介していただき、その広報も担当するようになった。こういった人のつながりで、いろいろな体験をさせてもらっている。
- ・ “山形ストリートピアノ”の取組みを始めたきっかけは、昨年、新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言が発令され、世の中が暗い雰囲気の中で、何か明るいことが発信できないかと考えた際に、どうして山形はストリートピアノが少ないんだろうと思ったことがきっかけ。富岡楽器の富岡さんや、小林部長といった人たちの、人のつながりで、協力を得ながら、ユニテカフェの庭で軽トラピアノで演奏を行った。
- ・ また、人のつながりで、アーティストの小林舞香さんと一緒に蔵王中央ロープウェイの展望台の装飾といった蔵王の観光資源の磨き上げに携わったりもしている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ つながりという点からいうと、with コロナの時もそうだが、ポストコロナにおいても、Zoomで海外ともつながることができる。小林さんには、インバウンドで力を入れているタイとのつながりについても紹介いただきたい。現在、ワーケーションは日本人が中心であるが、いずれは山形のコワーキングスペースでタイの方が働いたり、山形県が計画

している霞城セントラルのベンチャースペースにも、海外のビジネスチャンスが入ってくると、山形県の環境も激変すると思う。

【小林孝一氏】

- ・ 本来であれば、今年の2月、3月に多くの海外の若手映画監督が肘折温泉に来て、1か月滞在し、ドキュメンタリー映画を製作する予定だったが、コロナ禍で来ることができなくなり、すべてオンラインでの開催となった。
- ・ また、8月に肘折温泉で山形ドキュメンタリー道場が開催されるが、その関連組織であるドキュメンタリードリームセンターの藤岡さんが、タイや台湾などのアジアの国々との国際オンラインワークショップの開催を予定している。こういった形で海外の多くの人々が肘折温泉を利用してくれるようになればいいと思っている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 山形県ではV-tuberのジョージ・ヤマガタ氏が県の情報発信をしている。登録者は500名近くとなっており、そのうち1/3が首都圏の経営者などの県外の方である。そういった方に大蔵村の取組みを紹介したいと思っている。
- ・ ワークーションを進めるにあたり、場所の整備が非常に大事だと思う。飛島でワークーションを行った際、Zoom会議を行うにあたり、きちんとしたワークスペースが必要だと思った。飛島には、合同会社とびしま代表社員の松本さんが作ったSHARE HOUSE MYA（シェアハウスミヤ）というワークスペースがあり、今回のワークーションでも、そこで仕事をした。平尾先生は、Wi-Fiのスピードにこだわって地元の人と一緒に海テラスゆらを整備したが、その点についてのお話を聞きたい。

【平尾清氏】

- ・ ワークーションや新しい働き方といった時に、ハード面、ソフト面の両面の整備が必要だと思っている。ハード面では、雰囲気も重要で、堀江さんのスローブレッジや伊渕さんのコーディネートがあれば、仕事ははかどりそうだし、値段も高く設定できると思う。
- ・ ポイントは、この場所をどんな働き方として使って欲しいかということのを皆と共有すること。アーティスティックな感じがいいのか、効率的な感じがいいのか、無機質な感じがいいのかなど。どこに行ってもWi-Fiなど整備済みですというところが多いが、スピードや、大人数がつかない時にきちんと通信できるかなど、テストしていないところが多い。テストは簡単に行うことができるし、ルーターも1年単位で良くなっている。海テラスゆらでも、テストをやったところ回線スピードが上がっていないことが分かり、ルーターを切り替えたところ10倍のスピードとなった。
- ・ 海が見えて、回線スピードも速く、そこで働く人の仕事が快適になったのを地元の人に見てもらおうと、地元の人たちは、これは良い場所になったと、その価値を共感してくれる。すると、地元の中学生在が海テラスゆらを勉強会の会場として使い、速くなった回線を使ってYouTubeを見ながら英語の勉強をしたりして、中学生からも勉強しやすいといった声が出るなど、いろいろな波及効果が生まれる。
- ・ ハードだけで終わってしまうケースもあるが、ハード+ソフトに加え、想定していなかった、こんな使い方はどう？といったことをやってみることによって、新しい地元の資産になるのではないかと考えている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 大変示唆に富んだ話だった。giga スクール構想が現実のものとなる中で、今の子どもたちにとって、タブレット等が当たり前になってきている。コワーキングスペースは大人のものという観点ではなく、様々な人が使うようになれば、現在のワーケーション1.0が2.0、3.0になる可能性があると思う。

【平尾清氏】

- ・ ネット環境の整備が進み、大人たちが通勤から自由になり、働き方が自由になった。それと同じようにgigaスクールが進むことにより、学校にしばられない学び方を提供することが一つの肝になると思っている。山形県という場所は、子どもが安全かつ自由に学ぶ機会があり、大事な地域の社会資本となっている。これを活かすと、山形には、リアルな学びの機会がたくさん、しかも安全にあるということをアピールできる。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 山形県では、吉村知事が“子育てするなら山形県”を掲げ、様々な施策に取り組んでいる。その中で、親が子どもを安全なところに預けて仕事ができる環境、例えば海テラスゆらのような場所で、親は仕事をして、子どもも何人かで一緒にいれば、親も仕事を離れることなく、特に女性も子育てをしながら、高付加価値の仕事で働き続けることができるため、そういった環境をハード面で整備することが大事だと平尾先生の話聞いて思った。

【平尾清氏】

- ・ 釣りケーションのキーワードに“誰も取り残さない”というのがあるが、充実した時間は皆が味わえるという場を提供することが大事だと思う。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ スロービレッジに泊らせてもらったが、快適な1階のスペースや、隣には展望台があったりといったすばらしい環境の元、朝、カヌーを楽しませてもらったが、スロービレッジにはワーケーションで来られる方は多いのか。

【堀江守弘氏】

- ・ 出張で来られる方が、スロービレッジで仕事をして、打ち合わせに行ったり、戻ってきたりといった動きはあるが、自分の印象として、まだまだワーケーションが浸透していないと感じている。家族と一緒にきて、子どもたちは自然の中で遊んでいる中で、父親は仕事をしているといった動きを作っていきたい。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 堀江さんがスロービレッジを始めた経緯や、運営している中での感想をお聞きしたい。

【堀江守弘氏】

- ・ 元々ホテル業をやっていたのかといった質問を受けるが、自分の場合は、異業種からホテルの立ち上げに携わった。背景としては、飯豊町が電池バレー構想として、リチウムイオンバッテリーの投資を行い、産業を興そうと力を入れている中で、飯豊町には旅館はあるが、ビジネスマンが泊まる施設が足りない状況にあったことから、ホテルを立ち上げることとなった。
- ・ 施設があると、そこを拠点にいろいろなものが生まれることを感じている。宿泊を目的にホテルに来る人もいれば、地域の観光をする中間地点として宿泊する人がいる。ま

た、ここに来れば、地元の人とつながるきっかけも生まれる。コロナ前であれば、近くの居酒屋で飲み会をやったり、宿泊の人に交ぜてもらって自分も一緒に飲んだりするということがあった。何かしら拠点ができるということは、その宿泊施設だけではなく、地域にとっても大きなプラスになると考えている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 何かの拠点があるというのは、地域の活性化における肝だと思った。スロービレッジで言えば、外のジャグジーや1階のスペース、そして、水没林でのカヌー等、インスタ映えし、誰かにシェアしたくなる場所がたくさんある。
- ・ 堀江さんは、東京ではウェブマーケティングを仕事としていたが、地方における情報発信、特にデジタル発信という面で、現状やこれから取り組むべき点などをお聞きしたい。

【堀江守弘氏】

- ・ 社会人になってからは、ウェブ、ホームページなどに従事していたことから、デジタル発信という点では、大前提として、しっかりしたホームページを作って、情報発信を行うことが求められる。グーグルで検索した場合、営業時間がきちんと表示される等、しっかりアップデートしているかなど、当たり前なのが大事なポイント。そういったことを愚直にやる。そして、インスタやFacebookなどのSNSが広がってきているので、自分が発信することはもちろん、参加者の発信も大事。自分が主催しているカヌーでは、参加者がカヌー体験の様子を発信し、それを見た友達がカヌーをやりに来るといった連鎖が広がっている。個人の発信力が強くなってきていると感じる。
- ・ 地元山形という観点からいうと、地元の山形新聞やテレビ局など、そういった方々のつながりも大事にしている。水没林の季節の前には、メディアに向けた体験会を開催するなど、地元の新聞やテレビに取り上げてもらうことにより、認知度が上がるので、そこから個人、個人の発信のつながりを生むことが大事だと思っている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ インフルエンサーに高いお金を払っても、その場限りで続かない。むしろ、個人やその分野で有名な人が発信するということが、関係する人の行動につながっていくと思っている。

【堀江守弘氏】

- ・ 有名なインフルエンサーにお金を払って発信をお願いすることは、YouTubeであろうが、インスタであろうが、CMを打つ、広告を打つということと同じで、個人個人の発信とは違ったもの。受け手側のユーザーもお金を払ってお願いしているかどうかは、分かると思う。そういった意味でも、我々がやることは、山形には本質的にいいものがたくさんあるので、表面的にマーケティングで売るのでなく、自分たちの持っている魅力の本質は何かを自分たちが理解した上で、ストレートに伝えれば、受けて側も、「これいいね」、「行ってみたいね」、「これ広めたいね」となるものが多いと思う。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 平尾先生はグローバル企業の戦略にもアドバイスされているが、東京と山形を行ったり来たりする中で、山形の魅力を発信する際に平尾先生が心がけていること、共有したいことについて、お話をいただきたい。

【平尾清氏】

- ・ 酒田市のサンロクでコワーキングスペースを運営しながら、地域活性化のイベントやセミナーを企画している。そこにゲストとして、グローバル企業で有名な方やエリアで有名な人に来ていただいている。コロナ前では、ゲストに酒田の美味しいものを食べてもらい、酒田の面白い人を紹介したりしていた。最近は、オンラインセミナーが中心となっているため、スタッフがゲストの好みを聞いて、お酒やメロンを送るといったことをやり始めた。すると、堀江さんの話のとおり、マーケティング活動にとどまらず、人と人とのつながりが生まれる。山形ならではのところまで踏み込んでいくと、ゲストが気軽に来てくれるようになったり、気にかけてくれたり、宣伝を手伝ってくれるようになる。
- ・ 酒田市のサンロクも“つながり”をキーワードにしながら、思いに残るような深い関係性を作っていくことにチャレンジしている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 今の山形ならではの強みの点について、東京の大学を卒業し山形にUターンされた伊渕さんから、ワーケーションも含めた山形県の魅力発信について話をお聞きしたい。

【伊渕南々絵氏】

- ・ 東京でも色々な経験をし、つながりもできたが、大学4年生の時に山形で就職するか、東京で就職するか迷っていた際、東京は母数も多いので、余程秀でていないと埋もれてしまうという印象を抱いた。私自身は地方から面白いことを発信した方が面白いことができると思い、山形に戻り、アルトバルーンに就職した。
- ・ 堀江さんの「拠点があることが大事」という点について、自分もそうだと思っており、山形に打ち合わせに来たのに、打ち合わせはスタバというのが、もったいないと思っていたが、霞城セントラルにベンチャースペースができると聞いた。山形に戻ってきたばかりの時は、友人のコミュニティしかなかったが、その中で、いろいろなつながりを求めてきた。拠点ができることで、ビジネスの話ができる、友人以外のコミュニティができるということが、とても楽しみ。山形駅の西口を中心に山形の魅力的な場があるということ発信していきたいと思っている。

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 昨年着任して、知事から、若者、特に若い女性の定着にしっかり取り組むように指示を受けた。以前、伊渕さんから、山形出身で、山形のことを本当に好きだが、若い人のつながりがなく、山形に戻れない女性がいると聞いたが、みらいコミュニティで、どういう場所があるかということ発信していくことが大事だと思っている。最後に皆様から、若い女性の定着や魅力ある山形の将来の展望、今後の取組みについて話をお聞きしたい。

【伊渕南々絵氏】

- ・ 私自身が山形で楽しく仕事をしている、楽しんでいる姿を発信していくことが重要だと思っている。加えて、自分が作り出したつながりを自分だけのものにするのではなく、例えば、飯豊町に行くのであれば、堀江さんがいる、酒田に行くのであれば、平尾先生がいる、大蔵村には小林さんがいるといったように、各地域に素敵な人がいるということをつなげていくことが、大事だと思っている。私はプレイヤーとして活動しながら、

SNS で発信し、自分も楽しんでいきたい。

- ・ 小林舞香さんと一緒に蔵王中央ロープウェイの新たな企画に携わることきっかけは、V-tuber ジョージ・ヤマガタ氏のつながりにより生まれたもの。今日の Yamagata みらいコミュニティ座談会で生まれたつながりによって、何かできたらいいと思っている。

【小林孝一氏】

- ・ 「肘折バカンス」という名称で、ワーケーションに取り組んでいるが、いろいろな体験コンテンツを整備している。今後は、外国人や、家族、子どもが参加できるような体験コンテンツの充実化を図っていきたい。さらには、湯治に焦点を当てて、昔ながらの湯治が体験できるコンテンツも考えている。
- ・ ハードの面では、Wi-Fi のセキュリティが十分でないと利用できない企業が多く、企業、利用者からの問合せも多いことから、セキュリティがしっかりした Wi-Fi を整備する必要があると考えている。肘折温泉のワーケーションを法人にも PR しているが、なかなか広がらないため、個人で事業をやっている人をターゲットにリピーター化を目指していきたい。

【平尾清氏】

- ・ “アフターコロナのヒントは山形にあり” を強く打ち出してはいいのではないかと考えている。山形は地に足をつけながら、新しい働き方やワーケーションといった面白いことをたくさんやっている。リアルなつながりと一緒に、その第一弾が釣りケーションの動きだと思う。山形県自身が大規模な社会実験の場所であり、最先端地域であることを皆さんと一緒に発信していきたい。

【堀江守弘氏】

- ・ 我々が目指すところは、“山形でしかできないワーケーション” だと思っている。山形の地域、自然、季節から何が生み出せるのか。大蔵村の小林さんが取り組んでいる“雪” といったように他の地域では生み出せない地域の魅力を掘り起こし、磨き上げが必要だと思っている。カヌーの体験は全国どこでもできるので、私に取り組んでいるカヌー体験のサービスレベル、クオリティを上げて、満足できるもの創り上げる、ビジネスをデザインするということが肝だと思っている。
- ・ ワケーションというと、何かしらの体験と宿泊の2つが軸になっている。体験については、観光とアウトドアの中間というところが、ポイントになってきていると思う。観光というのは、観光地に行って、誰でも安全に体験できるもの。一方、カヌーのようなアウトドアは服装や一日かけての体験といったように大掛かりなものだが、自分がやっているカヌーの体験は、観光とアウトドアの中間という位置づけでデザインしている。そういったところが、ワーケーションの成功につながる要素ではないかと考えている。

■閉会

【小林みらい企画創造部長】

- ・ 本日は長時間にわたり、現場に即した体験や実感などを共有いただき、感謝申し上げます。次回は、「仕事とイノベーション」と題し、霞城セントラルに開設予定の創業支援センターで開催する予定としている。

以 上